



長門市立深川小学校 校長室・コミスクだより

本気・根気・元気

令和4年10月 24 日(月)

10月15日の開校150周年記念棧敷集会には、たくさんのご来場をいただき、ありがとうございました。子どもたちは、150周年について学習してきたことや、深川や長門への思いなどを、それぞれの学年に応じて、一杯表現してくれました。自然の地形を生かしたすり鉢状の会場は、客席と舞台との一体感もあり、この楽棧敷は本当に貴重な場であると感じています。(本校の事務主事がまとめた当日の様子を裏面に掲載しています。)



前日の第1部は、全校児童が集合して行いました。実に2年数か月ぶりの全校が集まる活動でした。3年生以下の児童にとっては、実に初めての経験です。行事を通して全校が一つになることが、これほどまでに心に響くものであることを改めて痛感しました。この楽棧敷を、児童・家庭・地域が一同に介して活動できるような場にしていけないだろうか、今、そのようなことを考えています。

150周年にあたり、中央公民館の御尽力で幅広い世代の本校卒業生から、心温まるメッセージやビデオレターをいただきました。その中のお一方のメッセージを紹介させていただきます。(遠く関西から頂きました)

私が在校中に100周年をやった憶えがあります。日本のどの町にも、美しい海と温泉があると思込んでいた小学生でした。

校歌に詠われる「新陽めぐり照らす時」は確実に来たと思うけど、「万葉の花」にはなれていないので、毎年桜を見るたびに校歌に“喝”を入れられる気がします。

本校では、開校150周年の今年度、棧敷集会を節目に二つのステップで学んでいくことにしています。

第1段階(棧敷集会に向けて)【愛校心】	第2段階(棧敷集会を終えて)【郷土愛】
<ul style="list-style-type: none"> ・深川小が時代とともに変化してきたこと ・深川小のよさ ・深川小で学べることの喜び 	<ul style="list-style-type: none"> ・深川小を支えてくださっている方々 ・ふるさとを愛する心情 ・これからの自分にできること

上のメッセージのような、実際の本校卒業生の方からのお言葉は、子どもたちにとって何よりの生きた教材です。

また、150周年記念事業の砂場づくり、飲食コーナーの準備、ドローン等を使った記念映像撮影など、様々なご支援をいただいたPTA、地域の皆様、本当にありがとうございました。数々の御支援を後半の第2段階の学習に生かして参ります。

深川小開校150周年記念 棧敷集会 150年つづくバトンを未来へつなごう！

10月15日、秋晴れのもと、赤崎神社の楽棧敷で深川小開校150周年記念の棧敷集会を行いました。

「150年つづくバトンを未来へつなごう！」というテーマで、各学年が工夫をこらした発表を披露することができました。



1年生

深川小学校の好きなところを大きな声で発表し、「青い空に絵を描こう」の楽曲にあわせて、合奏やダンスを披露しました。



2年生

身近な人にインタビューをした、深川小学校で過ごした思い出を発表しました。第一校歌の合奏・合唱も披露しました。



3年生

総合的な学習の時間に学んだ、長門市のよいところについて発表しました。迫力のあるダンスも披露しました。



4年生

150周年を迎える深川小学校への思いを、総合的な学習の時間に学んだ手話と共に「ツバメ」の楽曲にのせて発表しました。



5年生

「こげよマイケル」の楽曲にあわせて、手拍子を誘い会場を盛り上げました。深川小学校の伝統を受け継いでいくという思いを発表しました。



6年生

感謝の気持ちを込めて「ありがとう」の合唱を披露しました。150周年を迎える深川小学校の卒業生として、伝統のバトンを繋いでいくという思いを発表しました。



発表を見に来てくださった学校運営協議会委員の皆様からは「皆さんの発表に元気をもらった。」「これからの長門市の未来を託し、一緒に頑張っていきたい。」「発表を見て、長門の未来を担う皆さんの姿を心強く思った。」などの講評をいただきました。

楽棧敷という貴重な場所で棧敷集会を行うことができることに感謝し、150年つづいてきたバトンを、よりよい深川小学校となるようにつないでいきます。